

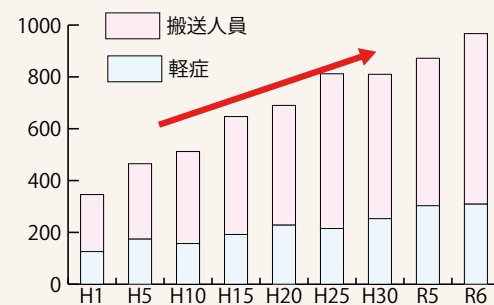
救急件数が急増しています

消防署 ☎88-0400



勝山市消防本部では救急車3台で救急対応の活動を行っています。救急車を必要としない軽症者を含め、救急出動件数は毎年右肩上がりに増加しています。

このまま増加が続くと救急車が同時に出勤することが多くなり、緊急に処置をしないと命に関わる方の救急要請への対応に、時間を要する恐れがあります。救急車の適性利用をお願いします。



救急搬送人員の推移

救急車の誤った利用例

- 今日は入院日(受診日)だから…
- 自家用車が無いから…
- 救急車で病院に行ったほうが早く診てもらえる…
- タクシーはお金がかかるから…

救急車適正利用のためできること

- ◎体調がすぐれない時は早めに病院を受診
- ◎持病のある方は、「具合が悪くなった時どうすればいいのかわかる」を予めかかりつけ医に確認
- ◎「鼻出血」、「捻挫、打撲などの怪我」、「風邪の症状」のような命の危険が少ない場合は、ご家族での搬送や介護タクシーを利用

このまま様子を見る？
病院へ行く？ 救急車を呼ぶ？
判断に迷ったら

☎#7119
※こどもは#8000

こんな時は迷わず119番！

- 意識がない
- 突然の激しい頭痛
- 胸が激しく痛む
- 交通事故(強い衝撃のあった)

1月24日、臨時市議会が開かれ、一般会計補正予算が可決されました。

決まった内容

補正予算

主な内容として、燃料等購入助成や二酸化炭素排出量の削減に向けた住宅のLED照明への買い換え支援、災害時における避難所の生活環境改善に必要なトイレカーの整備などを計上し、一般会計の総額は169億4902万円(5億4607万円増)となりました。

議案の内容はこちら



招集あいさつ
全文はこちら

**臨時市議会
補正予算を可決**

議会事務局(市役所3階)
☎88-8100

ガンガンいこうぜ！/ 勝山ちおこ ①

新たに着任しました



地域おこし協力隊
西谷 咲希 さん

こんにちは。昨年の12月1日から勝山市地域おこし協力隊として活動している西谷と申します。私は、令和6年能登半島地震で被災して勝山市に二次避難をしてきた輪島市の避難者の皆さまに付き添い、昨年2月に勝山市にやってきました。

その際に勝山市の方々に温かい支援をいただき、勝山市が大好きになりました。そして、避難者の皆さまが石川県内へ戻った後も勝山市に残って地域おこし協力隊として活動することに決めました。



避難者と地域の皆さん

楽しくイキイキできる地域づくりをしたい

今の日本は人と人とのつながりが希薄化し、核家族化に伴い、「孤独を感じている人」「孤立している人」が増えていると感じています。そこで私は、孤独・孤立を減らし、楽しく、笑顔あふれる地域づくりをしていきたいです。

その手段として空き家や商業施設を活用し、自然と行きたくなるような憩いの場を作りたいと思っています。

現在は、居場所づくりの第一歩として毎週土曜日午前11時30分からかつやまサンプラザで「こども食堂」を開いていますのでぜひ遊びに来てください！

また、勝山市のことを知るために様々な現場に足を運び、仲間やニーズを探しています。黄色い服を着ていることが多いので、どこかで見かけたら声をかけていただくと嬉しいのです。勝山についてどんどん教えてください。これからのよろしくお願いします。

Instagramで活動の様子を発信中



Instagramで活動の様子を発信中

JCHO-Column

大腸がんについて

福井勝山総合病院
副院長兼外科診療部長 田口 誠一



大腸がんは結腸と直腸に発生するがんのことで、日本では5状結腸と直腸に多く発生します。1年間に約15万人の人が大腸がんにかかると推定されています。2020年の統計で、罹患数は男性では前立腺がんに次いで2位、女性では乳がんに次いで2位でした。2023年の統計で、死亡数は男性では肺がんに次いで2位、女性では1位となっています。

大腸がんは腸壁の粘膜に発生しますが、進行すると深い層へと浸潤し大腸の閉塞や、周囲の臓器へ広がっていきます。症状は早期ではほとんどありませんが、進行すると血便、腹痛、便秘、下痢などの症状がみられるようになります。

2022年の大腸がん検診の受診率は男性が49・1%、女性が42・8%であり半数にも届いていません。便潜血陽性と判定され、精密検査を受けている人は約半数しかいないのが現状です。

大腸がんの治療は進歩しており、早期であれば内視鏡治療、がんの進行度により手術治療(開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術)、薬物治療、放射線治療などがおこなわれています。国立がんセンターのデータで、大腸がんの5年相対生存率はリンパ節転移がないもので97・3%、リンパ節転移があるもので75・3%、遠隔転移があるもの(ステージ4)で17・3%となっており、早期に発見し治療すれば比較的治りやすいがんの一つと考えられます。

しかし症状が出てから発見される大腸がんは進行していることが多いので40歳以上の人には症状がなくても大腸がん検診を受けることが推奨されています。1年に1回大腸がん検診を受けていただくことをお勧めします。野菜の摂取や適度な運動は大腸がんの予防になるといわれています。また、便通異常のある方、親族に大腸がんにかかった人が複数いるなど、少しでも心配がある方は当院消化器内科、外科またはお近くの医療機関にご相談ください。

